



おかわり！

柏原中学校 田中 心音

「いただきますー！」  
元気な声が響きわたる教室。私は給食の時間が大好きです。大好きになったのは、「おかわりをしたこと」がきっかけでした。

中学一年生の頃の、ある給食の時間。私は食べ終わってもまだお腹が空いていました。

「おかわりしようかな」

そう思いました。しかし、その頃の私は、おかわりをすることに抵抗がありました。なぜなら、おかわりをするのがなんだか恥ずかしく思えるようになったからです。なので、そう思うようになってから、おかわりをしに行っていないませんでした。ですが、その日はとてもお腹が空いていたので、意を決して行くことにしました。

ドキドキしながら先生にお茶碗を渡しました。すると、先生はいつもの明るい声で、

「おーいっぱい食べよー！」

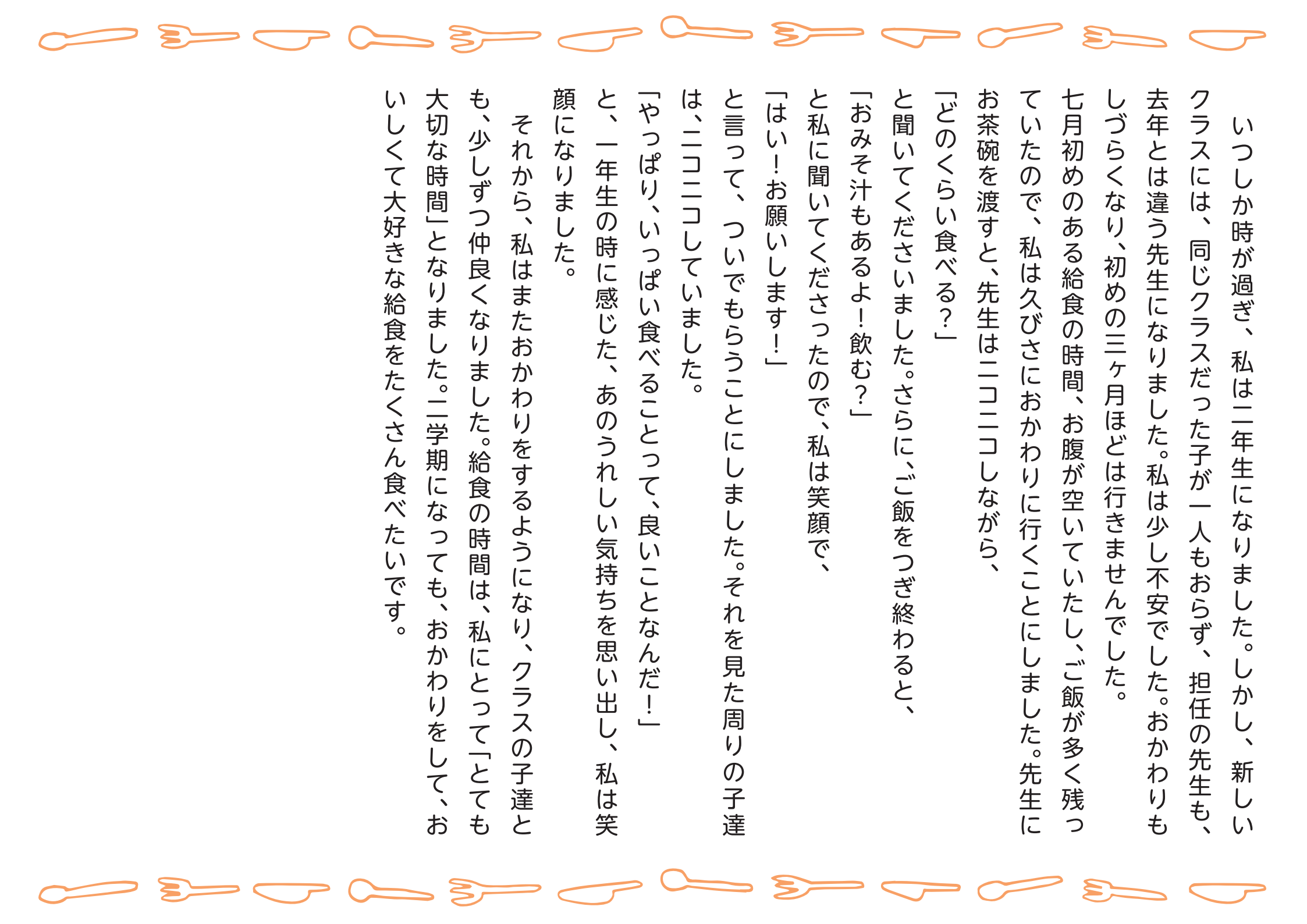
と私に言うてくださいました。そのとたんに私はうれしいような、照れくさいような、そんな気持ちになりました。

その日から私は、よくおかわりをしに行くようになりました。ある日、いつものようにおかわりをして席に着くと、となりの席の男の子が、

「田中さんいっぱい食べるんだねー！」

と笑顔で言うてくれました。私はますますうれしくなりました。そして、

「いっぱい食べるこつって、良いことなんだー！」  
と気づくこつができました。



いつしか時間が過ぎ、私は二年生になりました。しかし、新しいクラスには、同じクラスだった子が一人もおらず、担任の先生も、去年とは違う先生になりました。私は少し不安でした。おかわりもしづらくなり、初めの三ヶ月ほどは行きませんでした。

七月初めのある給食の時間、お腹が空いていたし、ご飯が多く残っていたので、私は久びさにおかわりに行くことにしました。先生にお茶碗を渡すと、先生はニコニコしながら、

「どのくらい食べる？」

と聞いてくださいました。さらに、ご飯をつぎ終わると、

「おみそ汁もあるよ！飲む？」

と私に聞いてくださったので、私は笑顔で、

「はい！お願いしますー！」

と言って、ついでもらうことにしました。それを見た周りの子供達は、ニコニコしていました。

「やっぱり、いっぱい食べることでって、良いことなんだー！」

と、一年生の時に感じた、あのうれしい気持ちを思い出し、私は笑顔になりました。

それから、私はまたおかわりをするようになり、クラスの子達とも、少しずつ仲良くなりました。給食の時間は、私にとって「とても大切な時間」となりました。二学期になっても、おかわりをして、おいしくて大好きな給食をたくさん食べたいです。